

# 子どもたちの笑顔が見たいから

菊池啓二さん

きくちけいじ

上郷町

76歳



これから生まれてくる子どもたちに  
残してあげたい「宝物」がある。

## 特集 未来への 贈り物

写真=河童がいたずらをしたといわれるカッパ淵(土淵町)

新校舎の落成を迎えた上郷小学校に、しし頭二十体を贈った菊池啓二さん。七月七日の落成式では、六年生の祐里さん、四年生の竜司君、一年生の未里ちゃんの三人の孫たちの前で感謝状を受け取った。「こうして三人がそろうのは今年だけだからね。本当にうれしかったよ」と笑顔で話す。

十四歳で大工に弟子入り。六十五歳で退職するまで、仕事一筋で生きてきた。「釜石大観音の拝殿の建築に棟梁として携われたのが、一番思い出深い仕事」と振り返る。

退職してからも農業の傍ら、大工で培ってきた技術を生かし趣味で物作りをしていた啓二さん。息子夫婦や孫たちがしし踊りを踊る姿を見ているうちに「自分にも何かできないか」と思い、わらじ作りやしし頭の修理を始めた。「子どもたちに使ってほしい」と四年前には子ども用に作ったわらじを、上郷保育園に贈ったことも。

新校舎落成を機会にしし頭を贈りたいと、当時の板沢しし踊り保存会長から話があったのが五年前。「しし踊り、そして子どもたちのためなら」と快諾した。子どもたちが元気に踊る姿を思い描きながら、毎日のように作業を続けた。「毎年、お盆にはすぐそばのお寺でみんなが踊るんだけど、子どもも大人も、いっぱい人が集まって盛り上がる。それがいつまでも続くといいな」と期待を込める。

六角牛山を望み、爽やかな風が吹き込む三畳ほどの一室が自慢の作業場。これまで手掛けてきた数々の作品が飾られている。現在は、孫のためにげたを製作中。「孫に頼まれるとね、嫌と言えないんだよ。孫の話になると、優しいおじいちゃん笑顔が浮かべた。